

# 4 見た目の老化と漢方治療—養生—

Anti-aging and Kampo treatment for appearance — Yojo care —

山田 秀和

Hidekazu Yamada

近畿大学アンチエイジングセンター／近畿大学医学部奈良病院皮膚科

## Key Words

- 漢方
- 抗加齢医学
- 皮膚
- 容貌
- 体形
- 養生

## Summary

The appearance is an important finding of aging. Since appearance is a complicated expression system, genetic factors and environmental factors are complicatedly expressed in relation. Many looks are that environmental factors occurred regulating the epigenome. In anti-aging medicine, showing the youth of appearance based on the skin-face-body shape leads to maintaining essential youthfulness. In Oriental medicine, from an apparent expression system, as a personal medical treatment, the entire living body is integratedly captured and responded by curing. The idea of curing, Yojo carried out in Kampo means to respond to exercise, meals, mental and environmental conditions, to delay aging, at a pre-illness level. In this article, I explained how to cure for health and herbal medicine prescription often used for aging symptoms.

## ■ 未病とアンチエイジング

現代的“未病医学”は、近畿大学東洋医学研究所の有地 滋教授が提唱し、現在に至っている<sup>1)</sup>。予防医学を目指す抗加齢医学でも、未病は理解しやすく、また実践しやすい領域と思われる。漢方薬では生薬を用いる点が特徴的<sup>2)</sup>で、その多くに抗酸化機能がある。薬物代謝は、内服が一般的で腸内細菌を介している可能性が高く、現在のマイクロバイオーーム (microbiome) の研究の進展で解明が今後期待される。

たとえば、カンゾウ (甘草) の主成分であるグリチルリチンの代謝は、そのままでは難吸収性であるが、腸内細菌

菌叢の Eubacterium 属に含まれるβ-グルクロニダーゼによって糖が切断され、グリチルリチン酸の脂溶性が高まり吸収されるという。グリチルリチンの効果の個体差は、Eubacterium 属に含まれる細菌によって生じると考えられている。腸内細菌によって切断された糖は、腸内細菌が取り入れてエネルギー源になるとされている。

## ■ 見た目のアンチエイジング

見た目のアンチエイジングという観点では、皮膚、容貌、体形に分けて考えている。見た目の研究では、主観年



山田 秀和

近畿大学アンチエイジングセンター／近畿大学医学部奈良病院皮膚科教授

1981年 近畿大学医学部卒、1989年 同大学院終了、医学博士。1995年 同大学在外研究員 (ウィーン大学)、2005年 同大学医学部奈良病院皮膚科教授。2007年 同大学アンチエイジングセンター副センター長 (併任)、アンチエイジングドック開始。2014年 大阪府立大学客員教授。

✉ yamadahi@med.kindai.ac.jp